

Elm歌曲研究会会報 No.37

2008年9月19日発行 発行者 Elm歌曲研究会 会報係



第13回定期演奏会「サルヴェ・レジーナ」より

●第13回定期演奏会「サルヴェ・レジーナ 1」を開催しました

去る7月6日日曜日、高崎市文化会館大ホールにて、第13回定期演奏会「サルヴェ・レジーナ 1」を開催しました。今回も1月の演奏会に引き続き、群馬交響楽団所属の弦楽器奏者の方々にご出演いただきました。前回に引き続きヴァイオリンの棚田敦子さん、また新たにヴァイオリンの小松英都さん、ヴィオラの池田美代子さん、チェロの長瀬夏嵐さん、そしてピアニストの小松久美さんとElmのソロ歌手、Elm合唱団との共演でお送りしました。

バロックから現代までの様々なマリア賛歌のひとつに、お客様からは、「知らない作品ばかりでしたが、演奏が心に深く染み入り、とても癒されました」とのご感想をいただきました。演奏機会に恵まれずに埋もれている「心に響く名曲」を取り上げた演奏会を、今後も伊藤眞由美会長が企画していくと思います。どうぞご期待ください！
(副会長 小池静香)

オルバーン ミサ曲第6番より



Pf.小松久美



Sop.1 石川理映子

Sop.2 西 美友貴

Alt.1 小池 静香

Alt.2 伊藤眞由美

今回私は先生方と一緒に、オルバーン作曲の重唱曲と、ビュセール作曲のアカペラ4重唱に挑戦させていただきました。初めて楽譜を開いてみた時に、「ん？何だこれ？」と思ったのは、オルバーンの曲でした。この作曲家との出会いは、前回の定期演奏会『アヴェ・マリア特集』でした。その時も「リ...リズムが！！」と苦闘しながら練習していたのを思い出します。今回の作品も、やはり自分の中に入って来るまでひたすら反復練習の繰り返し...。限られた時間の中で、自分なりになんとか練習してはみたものの、なかなか思うようにはいかず、そのまま先生方との合わせに入りました。しかし1回目、2回目と回を重ねるごとにだんだん曲調が分かって来るようになり、「この曲かっこいいな。」なんて思うようになりました。それとは反対に回を重ねるごとにどんどん深みにはまって、難しい！！と思っていったのが、アカペラの4重唱です。残念なことに、その思いは最後の最後まで変わりませんでした。機会があれば、またいつか納得のいくアカペラを歌いたい！と思います。そして今できること、今しか出来ないことに出来る限りチャレンジしていきたいなと思っています。最後になりましたが、いつも見守って下さっている先生方、聞きに来て下さるお客様、スタッフの皆さん、ありがとうございました。(演奏者 石川理映子)

定期演奏会は、とても感動的で心に響きました。皆さんの息はぴったり合いながらも、個性的で、音楽の楽しさが伝わってきました。

私は小さい頃、音楽に興味を持たずにいましたが、エルムと出会って本当に良かったと思います。音楽の表現という素晴らしさを知ることができました。音楽に情熱を注いでいる皆さんを見ていると、パワーをもらうことができ、自分自身の糧となります。

また演奏会があるときは聴きに行きたいと思います。

(お客様・ラルゴカンタービレ団員 **武藤厚子 様**)



Vla. 池田美代子



Vn1. 棚田敦子



Vc. 長瀬夏嵐

Vn2. 小松英都



Key. 小松久美

“Salve Regina”『ありがとうございました』聴き終えても、まだ、私たちの耳の奥底で、Elmの皆様の歌声が響き渡り、心をそっと静めてくださっていました。歌声の力強さ、やさしさ、静けさ...忘れていたものを、目覚めさせてくれるかの様に、私たちは、魂をゆすぶられていました。スッと涙が落ちました。

Elmの演奏会、感謝の気持ちでいっぱいになりました。次回も聴かせてください。(お客様・ピーターパンー同代表

浅香千恵 様)



ペルゴレージ サルヴェ・レジーナ
アルト・ソロ 伊藤真由美



D. スカルラッティ サルヴェ・レジーナ
メゾソプラノ・ソロ 小池静香



毎回ほとんど欠かさずに演奏会を聴いて来ましたが、仕事を授かり、自由にならず、2年振りにようやく出掛ける事ができました。前列に席をとり、ドキドキ、ワクワクと落ち着きませんでした。先生方の表現力、安定感のある歌声に心癒され、4人の女声アンサンブルも堂々と素晴らしく、この十数年を振り返り、感動致します。心にしみいるヴァイオリンの音、生き生きと輝いてうたいあげる合唱団、毎回、素敵な衣装にも楽しませて頂いております。

心安らぐ楽しい夏の夜のひとときをありがとうございました。次回も期待して居ります。(お客様 **小山照子 様**)

パブリックなものに対するパーソナルなこだわり

Elm歌曲研究会の「Salve Regina」と題された演奏会を聴きました。
素敵な演奏そのものへの感想は多くの方々が言及すると思います。私は少し異なった観点からの感想を述べます。

ヨーロッパの芸術音楽を考える際に、キリスト教の存在を忘れるわけにはいかないと思います。

音楽が『音楽』として存在する基盤、例えば『音楽』の三要素と言われる『旋律・リズム・ハーモニー』。これらにある種の普遍性があるのは事実ですが、必ずしも世界中のあらゆる音楽に共有されるものではないと考えます。

しかしこれらを基礎づける『世界の感受の仕方』の背後に存するキリスト教は、「西洋近代音楽」を結実させただけでなく、近代そのものを齎(もたら)した『精神以前の精神』とでも呼ぶべき機能を有したように思います。

ですから、肯定するにせよ否定するにせよ、いわゆる「クラシック音楽」に対する理解を深めたいと考えるなら、キリスト教と直接関わりのある音楽に触れる事は非常に重要なことだと思います。

「キリスト教、あるいはそれが齎した音楽」に対する関心は、ヨーロッパに於いてはパブリックなものになり得るでしょうし、現にそうでもあるでしょう。しかし日本に於いてはそうではありません。それに深い関心を寄せる事はむしろ個人的な事情に起因するよう思われます。

ですから結果としてElmの企画は、『パブリックなものに対する極度にパーソナルなこだわり』を表しているように見えます。

そしてこの態度そのものがキリスト教的というよりイエス的なもののように私には思われます。つまり、イエスは真にパブリックなものに到達するために、よりパーソナルであらねばならなかったではありませんか？

今日私たちを取り巻く多くの音楽は、自己に忠実である事を一義としています。つまり「自己表現＝自分に正直であること」に価値をおいています。

しかし、「キリスト教が齎した音楽＝西洋近代音楽」は「他者」を有する音楽です。つまり「自分自身を信じる、あるいは愛する」ことに価値を於く音楽ではなく、言わば『汝の隣人を愛せ』とでも言うべき音楽です。この差異をとるに足りない事と見なす事は出来ません。

私は、この「パブリックなものに対するパーソナルな意志」に、大袈裟に言えば、何か痛ましさに類するものを感じ、それに強く動かされたように思います。

そしてそれは伊藤真由美氏の指揮する背中に感じられる「孤」の佇(たたず)まいとともに、私には非常に好ましいものに感じられました。
(お客様 音楽家 井上良博 様)



ラインベルガー 「サルヴェ・レジーナ」(Elm女声合唱)



クームス 「サルヴェ・レジーナ」(Elm合唱団)



アンコール モーツァルト 聖なるマリア、神の御母よ
(指揮 伊藤真由美)

●クレール音楽会Vol. 11を開催しました

去る8月31日（日）高崎市榛名文化会館エコーホールにて、若い音楽家のための「Clair音楽会Vol.11」を開催致しました。

今回は、舛田純子、芹澤泉、西美友貴による声楽独唱を、そして、Elm合唱団による混声合唱を、石川理映子のソプラノ・ソロ入りでお送りしました。

毎日雨が降り続いておりましたが、本番当日は天気も良く、会場内も落ち着いた雰囲気、演奏会を始める事ができました。

今回で、しばらくお休みとなる「Clair音楽会」。研鑽の場が必要である私達に、1つ1つの事を、自分達の熱意と力で作り上げていく貴重な機会を下さった先生方、そして、未熟な私達の演奏会に、快くご来聴下さった皆様へ、心から感謝申し上げます。

来年からは、「勉強会」へと変わりますが、気持ちを新たに進んで参りたいと思います。本当にどうもありがとうございました。
(クレール係 西 美友貴)

私は独唱と合唱に出演させて頂きました。今回の合唱曲はハイドンのミサ曲でしたが、お客様から「大変によかった」とお声を頂きました。限られた練習時間による緊張感やまたそれを乗り越えるだけのメンバーの信頼が先生の振り下ろす指揮によって共鳴、一体となってお届けできたのだと思いました。

また独唱ではドナウディとトスティを歌わせて頂きました。ドナウディの3曲とも過去の愛した女性への想いを美しいメロディに乗せて歌うのですが、表現や発音など“伝える”という面でも大変に勉強になりました。

私がここまでこれたのもご指導頂いた先生方やElmの仲間、そして聴きにに来て下さった皆様のお陰です。これからも感謝の気持ちを忘れる事なく精進して行きたいと思います。

(出演者 舛田純子)



舛田純子



芹澤 泉



峯岸 梓



久米 咲



西 美友貴



小松久美



Elm合唱団



ハイドン「聖ヨハネスの小オルガンミサ」より
ソプラノ・ソロ 石川理映子



Elm合唱団



今回、クレール音楽会を初めて拝聴させていただきました。声楽ソロ、混声合唱のコンサートは今まで聴く機会がありませんでしたので、とても新鮮でした。皆さんの華やかで美しい声がホールに響き渡り、とても印象的でした。男性の声も迫力があり、これはもっと多くの方に聴いて頂かないともったいないと感じました。次回、また違う曲も聴いてみたいと思います。
これからも皆さんで頑張ってください。応援しております。
(お客様 峯岸 みえ子 様)



Elm合唱団 (指揮:伊藤真由美 伴奏:小松久美)

●イチゴ組合唱団が暮鳥文明まつりに参加します



今年も高崎市文化協会群馬支部から依頼を受け、12月14(日)午後1時より土屋文明記念館で行われる「暮鳥・文明まつり」にElmイチゴ組が参加します。毎年、高崎市群馬地区(旧群馬町)の小・中学生の入選作品の数曲にElm有志が作曲・編曲をし、Elmイチゴ組が演奏します。作曲してみたい方、子どもたちに喜んで欲しい方、作曲にチャレンジしてみませんか？希望者は10月末日までにイチゴ組係芹澤までお知らせ下さい。

今回も子供たちの様々な詩にどんな曲ができるか楽しみです。お忙しいと思いますが、皆様是非、お出かけ下さいませ。
(イチゴ組係 芹澤 泉)

● Elmミュージカリー第8弾「Elm森の一日 その3

「とんがらぐるみの話～いのちをつなぐうた～」を上演します

秋本番の11月16日(日)、箕郷文化会館にて、原作・脚本小池静香、演出伊藤眞由美で、Elmミュージカリー「Elm森の一日その3とんがらぐるみの話～いのちをつなぐうた～」を上演いたします。

この世界のどこかに存在するというElm森で、個性豊かな動物達が繰り広げるお話も、おかげさまで今回で第3話となりました。前回までは短いお話だったのですが、今回は、森、川、草原、と場所を変えての大冒険。毎回、大切な事を教えてくれるElmの森が、今回は「いのちのつながり」について、動物達が忘れかけていた事に気付かせてくれます。今、生きている私たちの問題とも重なるお話です。森、川、海の現状や、自分達の未来を知った時に、動物達は現実に向かい向うのか、逃げ出すのか？どうぞ、ご期待下さい。

ミュージカリー団員の方も新しい仲間がたくさん加わり、刺激しあいながら日々、練習に励んでいます。どのような舞台になるかは未知数ですが、皆の真剣な表情や、動物になりきった姿を見ていると本番が楽しみで仕方ありません。

会員の皆様には、会員特典といたしまして、ご招待券並びにチラシを同封させていただきました。皆様、どうぞお誘いあわせの上、是非ともご来場下さい。(ミュージカリー係 石川裕之)

Elmミュージカリー第8弾「Elm森の一日第3話 「とんがらぐるみの話～いのちをつなぐうた～」

日 時:2008年11月16日(日)午後6時開演(午後5時30分開場)

場 所:高崎市箕郷文化会館

入場料:1000円

● 今後の予定

2008年

11月16日(日) Elmミュージカリー第8弾 Elm森の一日 その3
「とんがらぐるみの話～いのちをつなぐうた」 (高崎市箕郷文化会館)

12月14日(日) 暮鳥文明まつり (高崎市文化協会群馬支部主催)

2009年

1月31日(土) 歌曲と重唱のタベV o 1. 6 (高崎シティギャラリー コアホール)

各催しに参加、出演、来聴ご希望の方は、本部までお問い合わせください。

● 参加したい人「この指とお～まれっ！」

「聴いてみようかな」「やってみようかな」「見学したいな」と思われた方は、本部までご一報下さい。連絡先は下記の通りです。その他、すべてのお問い合わせも、下記にお願いします。



Elm歌曲研究会

郵便
電話、ファックス
電子メール
ホームページ
会費振込先

370-0868 群馬県高崎市鼻高町31-2
027-322-8237
hi@elmutaou.com
http://elmutaou.com/
郵便振替 00580-6-33594